

# 夢と誇り

と 大 西 ひ で と  
報 会 後 援 会

vol.4



第1回「市長まちかどトーク」

7月11日、第1回の「市長まちかどトーク」を開催。特定非営利活動法人どんぐりネットワークの皆さまから活動状況を伺うとともに、環境問題を中心に活発な意見交換を行うことができました。

## セント・ピーターズバーグ市 エルバートン市を公式訪問

高松市の姉妹都市である米国フロリダ州セント・ピーターズバーグ市と、旧牟礼町の姉妹都市であるジョージア州エルバートン市を平成21年5月に訪問し、交流を深めました。セント・ピーターズバーグ市では、リック・ベーカー市長への表敬訪問のほか、障害者の芸術活動を支援する国際的催し「アートリンク」や、日本の世界遺産写真展のレセプションなどに出席。また、同市からの高校生親善研修生派遣事業に支援いただいた大リーグ・レイズの岩村明憲選手に謝意を伝えました。エルバートン市では、ラリー・ゲス



ト市長をはじめ、商工会議所や小学校を訪問、採石場や石材加工所も視察しました。今回は、短い滞在期間でしたが非常に充実したものでした。セント・ピーターズバーグ市との姉妹都市提携は、来年50周年を迎えます。今回の訪問を契機に、さらなる友好親善を図ってまいります。

NEWS

## 瀬戸内国際芸術祭に向け 越後妻有トリエンナーレを視察

瀬戸内国際芸術祭の先行モデルとなる「越後妻有トリエンナーレ」大地の芸術祭2009」を視察するため、平成21年8月に新潟県を訪ねてきました。



芸術祭が展開されている妻有地域全体の面積は約760km<sup>2</sup>。里山と棚田が広がる広大な大地に、370点ものアートが展示、展開され、大勢の見物客で活気づいていました。展示されている作品は、いずれも面白く、力強く、やさしく、明るく、丁寧に、ささやくように、包み込むように、インスタレーションや感動を与えてくれ、生きる力ももたら

きました。越後妻有の「美」と「農」へのオマージュが「美」と「海」と「島」へのオマージュに変わって、瀬戸内国際芸術祭2010へと受け継がれていく。この視察で、成功に向けての道筋が少し見えてきました。

## ASPAC2011 高松開催決定

平成23年に開催される「アジア太平洋盆栽水石大会（ASPAC）2011」の本市への招致活動を行うため、「アジア太平洋盆栽水石大会・台湾大会」に出席してきました。大会では、本市が松盆栽の全国シェア80%を誇る「Bonsaiのまち」であることや、各種コンベンション・宿泊施設も充実していること、さらに今年に現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2010」が開催されることなど、本市の多彩な魅力を紹介したほか、準備委員会の山田宏美副委員長からも、招致に向けて強力なアピールを行いました。お陰さまで全会一致で、我が国初の「アジア太平洋盆栽水石大会」が、平成23年秋に本市で開催されることとが決定しました。



「アジア太平洋盆栽水石大会」が、平成23年秋に本市で開催されることとが決定しました。

## 学校訪問

子どもたちが市長と直接触れ合うことで、ふるさとを思う気持ちが強くなればという思いを込めて、本年度は小学校8校を訪問する予定にしています。すでに6月に上西小学校、9月に浅野小学校、10月には香南、十河、



屋島の3小学校を訪問し、本市の未来を担う「小さな市民」の皆さんと交流を深めました。屋島小学校では、私をモデルに2年生の児童の皆さんが似顔絵を描いてくれました。その絵は、市長室に大切に飾っています。



## 第16回高松秋のまつり 仏生山大名行列

高松藩主が菩提寺である法然寺へ参拝する様子を再現した仏生山の大名行列。一昨年に続き二度目となる初代高松藩主・松平頼重公役で白馬に乗り、豪華絢爛な衣装を纏った姫君や侍、侍女などに扮した皆さんと共に、「御成り、御成り」の掛け声に合わせて、古い町並みを残す「仏生山お成り街道」を練り歩きました。



## 「イノベーション」を起こす条件

大西ひでと後援会会長 平田 喜一郎



いずれ近いうちに中央主権から地方主権へと国のあり方は変わるでしょう。変わらなければ日本はもたなくなります。



そもそも創意工夫、これは大西市長の言われている「イノベーション」と言い換えてもいいのですが、これは何事においても現場でしか生まれません。

高松市民の生の声が聴ける、我々が生活している高松市という現場で、現場の声を聴きながら試行錯誤を重ねていくうちに「イノベーション」が生まれてきます。

財政状態が厳しい折、限られた予算で最大の効果を生むためにも現場主義は欠かすことのできないものだと思います。そして一番肝心なことはそのことを使命感として心に抱き続けるリーダーの存在であり、今後も大西市長の手腕が期待されるところでです。

最後に、今年が明るいニュースの多い平和な年でありませう、また、皆様の御健康と御多幸を祈念いたします。

## クリエイティブな青でお祝い

高松市長 大西 秀人



今年、平成22年は、明治23年2月15日に全国で40番目の都市として高松市が誕生してから、120周年を迎える記念すべき年です。そして、それをお祝いするかのように、大きな国際的イベントが2つ開催されます。

「第2回高松国際ピアノコンクール」と「瀬戸内国際芸術祭2010」です。

この2つのイベント、いずれのシンボルカラーも高松のさわやかな海と空を象徴する青です。青は、市長になる前から、ホームページの色などを含めた私のイメージカラーです。今年、南アフリカで開催されるサッカーのワールドカップで活躍が期待される日本代表のユニフォームの色でもあります。

還暦には、赤いちゃんちゃんこでお祝いする風習がありますが、高松市の2度目の還暦に当たる平成22年は、青を基調にして、クリエイティブな芸術文化イベントで盛り上げ、少しでも明るい年にできればと思っています。今年もよろしくお願いたします。

## 2009後援会活動報告

2月1日 後援会会報「夢と誇り」第3号を発行  
全会員に総会の案内とともに同封、送付しました。

4月12日 高松国際ホテルで第1回役員会を開催  
総会に提出する平成20年度活動報告・収支決算報告及び平成21年度活動方針(案)・平成21年度収支予算(案)、役員(変更・追加)の選任(案)を審議、いずれも承認。総会に提出しました。

4月12日 総会及び懇親会を開催  
役員会終了後、引き続き平成21年度通常総会を開催しました。大西市長より「高松市のまちづくり」について講演をいただきました。提出議案等につきましては、いずれも可決承認され、通常総会は盛会のように終了しました。

8月11日 会長・副会長会を開催  
12月2日 第2回役員会を開催

大西ひでと後援会事務所のご案内

〒760-0061 高松市築地町2-5 Fax.087-822-2024  
Tel.087-822-1024

大西ひでと後援会 ウェブ検索  
http://www.oi-hideto.com

# 活動報告 2009

January

## 1/12 2009年高松市成人式



晴れの門出を迎えられた皆さまにお祝いのごあいさつをしてきました。今後は、自らの可能性を信じてさまざまなことに挑戦し、人生を有意義なものとしていただきたいと思います。

February

## 2/17 たかまつ美しいまちづくりシンポジウム



12月議会で成立した、「高松市美しいまちづくり条例」について、制定前に市民の皆様にも認識や関心をより高めていただくため、大分市長等とシンポジウムを開催しました。

March

## 3/29 太田第2土地区画整理事業竣工記念式



太田第2土地区画整理事業は、「潤いと活力に満ちたまちづくり」をテーマに、これまで道路や公園、上下水道などの整備に取り組み、実に21年余の歳月を経て、竣工に至りました。

April

## 4/6 高松第一中学校開校式



本市初の新設統合校「高松第一中学校」の開校式を執り行いました。新たに始まった本校の歴史が、明るく、希望に満ちた光り輝くものとなることを心より期待しています。

May

## 5/3 高松春のまつり フラワーフェスティバル&交通安全フェア2009



花と緑いっぱいのまちづくりの輪が更に広がるとともに、交通事故防止と交通マナーの向上が図られることを願い、高松春の祭りを開催しました。

June

## 6/21 中央公園芝生化大作戦



地元自治会をはじめ、商店街・企業、小学校・保育所・幼稚園などからご参加いただいた900名超のボランティアの方々と、「協働」により中央公園で芝生の植付け作業を行いました。

July

## 7/6 岡山市長とトップ会談



玉藻公園の披雲閣で岡山市の高谷茂男市長とトップ会談を行いました。会談では、両市共同での観光PRや情報発信、非常時の協力体制を構築することなどで合意に至りました。

August

## 8/5 大島青松園夏祭り



庵治町大島青松園の納骨堂に献花を行うとともに、恒例の夏祭りでも皆様にごあいさつをしました。会場では、打ち上げ花火や模擬店など、多彩な催しが繰り広げられました。

September

## 9/22 第2回カーフリーデー高松開催



“快適で人にやさしい都市交通の形成”のテーマの下、これからの公共交通の在り方を市民の皆様と共に考えるため、「都市交通シンポジウム2009」を開催しました。

October

## 10/21 児童福祉施設(保育所・園)訪問



下笠居中央、香西、和光、西春日、今里の5か所の保育所・園を訪ね、児童の皆さんのお遊戯や歌の発表を拝見したり、一緒にゲームをしたりと、本当に楽しい時間を過ごしました。

November

## 11/4 市役所でIruCa利用開始



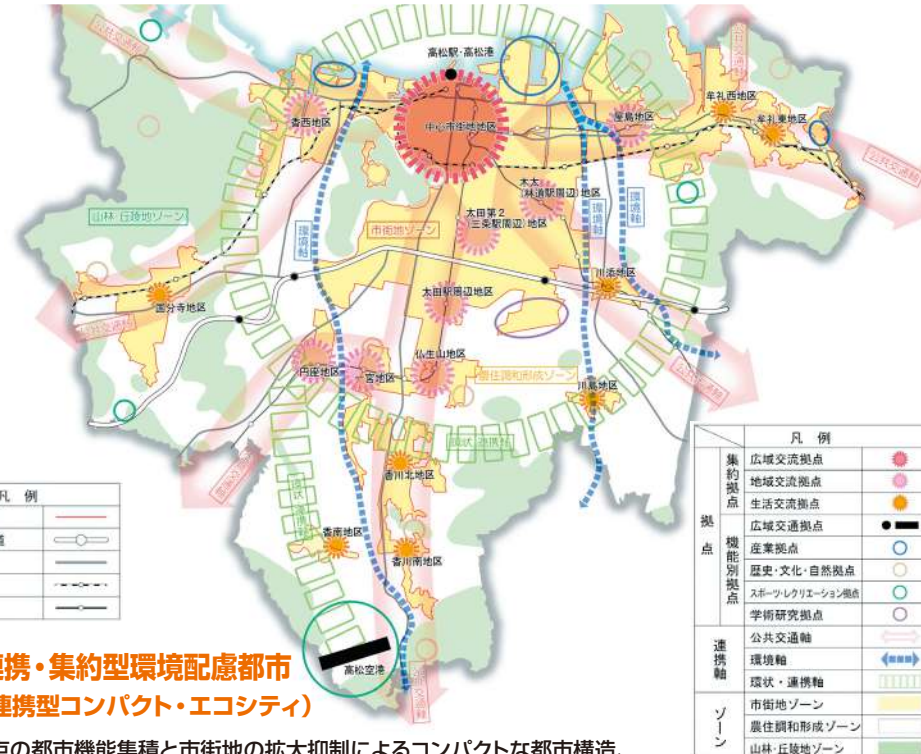
本市では16の市有施設の使用料などを、高松琴平電気鉄道(株)発行のIruCaカードで決済できるシステムを本格導入。そのPRを図るため、市役所でデモンストレーションを行いました。

December

## 12/19 「第23回高松冬のまつり」オープニング



冬の高松のまちを華やかに彩る恒例の第23回「高松冬のまつり」のオープニングに出席しました。今年は「心の輪、仲間の輪に集まろう」をサブテーマに開催されました。



用途地域等	———
高速自動車道	———
主要道路	———
JR	———
ことでん	———

集約拠点	●
広域交流拠点	○
地域交流拠点	○
生活交流拠点	○
広域交通拠点	●
産業拠点	○
歴史・文化・自然拠点	○
スポーツ・レクリエーション拠点	○
学術研究拠点	○
公共交通	○
環境軸	———
環状・運搬軸	———
市街地ゾーン	■
農住調和形成ゾーン	■
山林・丘陵地ゾーン	■

### 多核連携・集約型環境配慮都市 (多核連携型コンパクト・エコシティ)

集約拠点の都市機能集積と市街地の拡大抑制によるコンパクトな都市構造、および人と環境にやさしい公共交通を縦軸とした環境配慮型交通システムを併せ持つ持続可能な環境都市「多核連携・集約型環境配慮都市(多核連携型コンパクト・エコシティ)」を目指します。

### 1 多核連携型コンパクト・エコシティの推進

高松市では、人口減少や少子・高齢社会への対応や、平成16年の線引き廃止、近隣6町との合併など、社会経済情勢の変化等を踏まえ、20年先を見通した新たな都市計画マスタープランを策定しました。

このマスタープランでは、「集約拠点への都市機能の集積」と、「市街地の拡大抑制」を基調とするコンパクトな都市構造を前提として、人と環境に優しい公共交通を機軸とする、環境共生都市「多核連携型コンパクト・エコシティ」を目指すこととしています。

現在、このマスタープランに基づき、適正な土地利用を誘導する土地利用コントロール制度の充実強化や、人と環境に優しいR/Tなどの新交通を含めた公共交通

### 2 市民主体の自治運営を「自治基本条例」の制定で

高松市の自治の基本理念や基本原則などを定めた「自治基本条例」が、去る12月に開かれた市議会において可決され、高松市の市制施行120周年記念日にあたる平成22年2月15日から施行されます。

この条例は、自治を担う主体である、市民、議会、行政が、「情報共有」「参画」「協働」の3つの基本原則のもと、地方分権時代にふさわしい、市民が主役の自治運営を行うことを明らかにしたものです。

条例の制定にあたっては、その過程においての市民参画がなにより大切との思いから、「自治基本条例」を考える市民委員会、「自治基本条例制定委員会」での議論を重ねていただくとともに、条例案に対する、パブリックコメントを行うほか、私が直接市民の皆様と意見交換を行う機会を設ける(市内5か所)など、広く各界各層の御意見をお聴きし、まさに市民参画による条例制定を実現することができました。

### 3 誰もが暮らしやすい、訪れたいまちへ「美しいまちづくり条例」の制定

高松市は、海、島、里、山など豊かな自然を抱き、四季折々の恵みと歴史文化の息吹きを堪能できる素晴らしいまちです。この固有の魅力や、将来にわたって持続させ、誰もが暮らしやすい、訪れたいと感じるまちとするため、「美しいまちづくり条例」を制定しました。

高松市では、平成5年に「都市景観条例」を、9年に「環境美化条例」を制定していますが、この「美しいまちづくり条例」は、景観の形成・保全と環境美化の両者を一体的に推進する、全国的に見ても珍しい条例です。

今後とも、この条例に基づき、市民、事業者、市の三者が自ら進んで取り組むとともに、相互に連携しながら、個性豊かな美しいまちづくりに努めていきたいと思います。

### 4 効果的・効率的な業務のあり方をめざして「事業仕分け」

去る10月12日、次期行財政改革計画の重点課題である「業務の総点検」の環として、「構想日本」による事業仕分けを実施しました。この「事業仕分け」は、個々



「創造性豊かな海園・田園・人間都市」の実現をめざして

高松市が持つ、豊かで多様な地域資源を活かし、全ての市民が暮らしやすさに夢と誇りを持つ「創造性豊かな海園・田園・人間都市」の実現のため、私が選挙時にお示しした「マニフェスト」に掲げる、「コンパクトなまちづくり」への取り組みや、「自治基本条例」、「美しいまちづくり条例」の制定など、各種施策・事業を積極的に推進しました。



平成21年度 高松市事業仕分け



の事業を、市民の目線から、必要かどうか、また必要な場合は官民のどこが担うのが適切かなど、「そもそも論」に立ち返って、見直していただくものです。

見直し対象としたのは、市民やNPOとかかわりのあるものや、市民との協働の可能性の高いなどの視点から抽出した10事業です。公開の場で行われた、外部の仕分け人・担当職員との丁寧なやり取りを、当日は、市民や議員の方々、職員ら約300人が見守りました。

今後は、この事業仕分けの考え方を、予算編成方針や、現在策定中の次期行財政改革計画に盛り込み、市全体の事業へ、また個々の職場における日常的作業へとつなげていくこととしています。